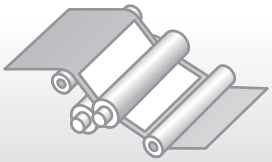
FUJIFILM

PRESCALE

圧力測定フィルム プレスケール 活用事例 [No.11]

測定対象



サイズプレスゴムロール

目的

サイズプレスゴムロールの摩耗確認

成果

- 材料ロス低減
- 品質向上

業種

製紙（抄紙工程）

用途

幅切り替え時にサイズプレスゴムロールを摩耗確認

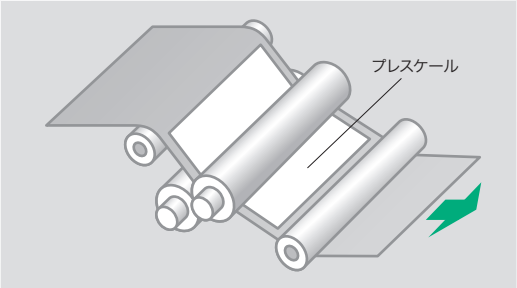
課題

狭幅品から広幅品への切り替え時。サイズプレスゴムロールの狭幅品種のエッジがあたる部分が僅かでも磨耗している場合、広幅品を抄紙するとスジ状のムラが発生。しかし、これまでは抄紙スタート後に巻取り品をチェックして初めて異常が発見され、最悪の場合にはアプリケーターロールの研磨およびテスト抄紙を繰り返すことになった。

測定

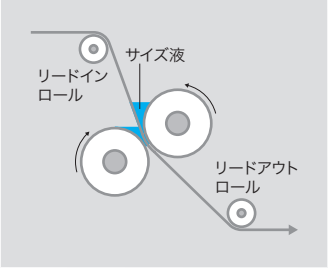
使用製品プレスケール（超低圧用 LLW）

乾燥した紙の表面に薬品、塗料を塗布するサイズプレス工程。抄紙前のチェックとして、サイズ液等を供給せずにプレスケール（LLW）を通し、磨耗の有無を確認。研磨の最終判断を行う。

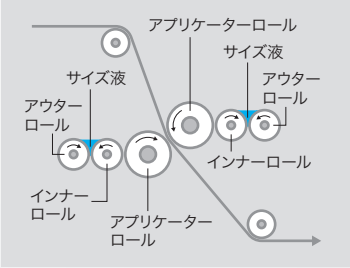


[サイズプレスの各種方式に対応]

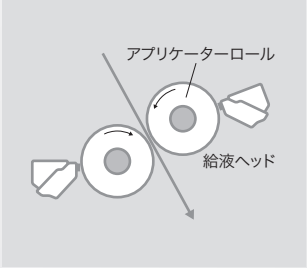
■ポンド式



■ゲートロール式



■メタードサイズプレス式



結　　果（イメージ）

紙を抄いてみなければ分からなかったサイズプレスロールの微細な摩耗や傷を、抄紙前にチェックすることができる。

［不 良］

狭幅品のエッジがあたっていた部分に、ゴムローラーの摩耗が見られる。

［正 常］

ゴムローラーに摩耗がなく均一に圧力がかかっている。

導入効果

サイズ切り替え時、サイズプレスロールに傷があった場合のロス

- **時間ロス効果**
  約半日分の修復時間（数百万円/切替）
- **材料ロス効果**
  数百メートル分の紙ロス（数10万円/切替）
- **品質ロス効果**
  見逃しがあると品質異常が発生

プレスケールを使わない場合

サイズ切り替えでは、まず抄紙をスタートさせ抄造しながら出来上がった紙をチェック。“スジ”など不備があった場合、ロールを研磨して再度抄紙を行う。“スジ”が直らない場合、上記作業の繰り返しとなり**時間と材料のロスが発生。**

プレスケールを使用した場合

サイズ切り替え時、事前にプレスケールで確認。30分程度なので他の切り替え作業中に実施可能。ロールに傷があった場合、研磨とプレスケールチェックを傷が無くなるまで実施。安心して抄紙が開始でき、**生産性と品質が向上。**

プレスケールの詳細は　▶▶▶　http://fujifilm.jp/prescale/

※本カタログに記載の仕様および性能は、改良のため予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。使用している画像はイメージであり、実際に測定したものとは異なります。

富士フイルム株式会社
産業機材事業部／〒107-0052　東京都港区赤坂9-7-3
Email　prescale-info@fujifilm.co.jp
URL　http://fujifilm.jp/business/material/prescale/index.html
https://fujifilm.jp/business/material/prescale/promotion/index.html